

スピーカーアキュライザーの活用(8)
—TELEFUNKEN L-61—

1. 始めに

前報(7)に引き続き、追加購入のスピーカーアキュライザーをサブシステムに使用していきます。

2. スピーカーアキュライザーSPA-7の試聴計画

今回は、サブシステムのうち、TELEFUNKEN L-61 に適用してみます。

これまでの TELEFUNKEN L-61 の設置状況は、サブシステムの再構成(12)とサブシステムの再構成(15)で報告しています。

スピーカーリベラメンテ 5m 長を使用し、スピーカーアキュライザーにバナナプラグで接続し、スピーカーアキュライザーからバナナプラグ経由で TELEFUNKEN L-61 に接続します。

音源は、スピーカーアキュライザーの活用(2)からスピーカーアキュライザーの活用(6)までで使用した各種音源から一つずつ選択します。

アナログ

Deutsche Grammophon 483-6927/6928/6929

J.S.Bach Sonatas & Partitas

Nathan Milstein (Vn)

CD

Hyperion CDA67993

ウジェーヌ・イザイ 無伴奏ヴァイオリンソナタ 1 番～6 番

アリーナ・イブラギモヴァ(ヴァイオリン)

ハイレゾファイル音源

Universal Music UCCG-40074(MQACD)

ドボルザーク 交響曲 8 番・9 番

ラファエル・クーベリック指揮ベルリンフィル

ベルリンフィルデジタルコンサートホール

グスタフ・マーラー 交響曲 3 番

ロレンツォ・ヴィオッティ指揮ベルリンフィル

STAGE+

ベートーヴェン ピアノソナタ 30 番 31 番 32 番

マウリツィオ・ポリーニ (ピアノ)

3. スピーカーアキュライザーSPA-7の試聴結果

駆動アンプは、前報(7)と同様、Pilotone Tungstol 5881pp とします。CDの再生は、前報(7)と同様、下記の経路としています。

EMT981(*)→CRV-555(*)→DAC-1→TruPhase

*GPS-777よりクロック入力

アナログのバッハのSonatas & Partitasは、落ち着いた音で、しみじみとした演奏が聴けます。

CDのイザイの無伴奏ヴァイオリンソナタは、これも落ち着いたCD臭くない音です。

ハイレゾファイル音源(MQACD)のドボルザークの交響曲8番・9番は、解像度はメインシステムのFAL C90EXWに及びませんが、弦や木管が滑らかで、スケール感はありませんが、まとまりの良い音です。

ベルリンフィルデジタルコンサートホールのマーラーの交響曲3番は、ツイーターがコーンのため、高域の伸びがなくて金管の華やかさに不足するところがありますが、キャビネットやユニットのサイズを考えると、まずまずのスケール感も出ています。

STAGE+のベートーヴェンのピアノソナタは、ツイーターがコーンのため、高域のアタック感が不足するところがありますが、キャビネットやユニットのサイズを考えると、ポリーニが弾くFabbriniのまずまずのスケール感も出ています。

4. まとめ

Pilotone Tungstol 5881ppで駆動するTELEFUNKEN L-61は、初めての組み合わせであり、スピーカーアキュライザーだけの効果を比較するすべがありませんが、別のアンプでの駆動との比較の記憶では、音の素直さやバランスの良さがでていると思われま

以上